



市の木つけ



市の花さつき

# 広報 えびな



市章

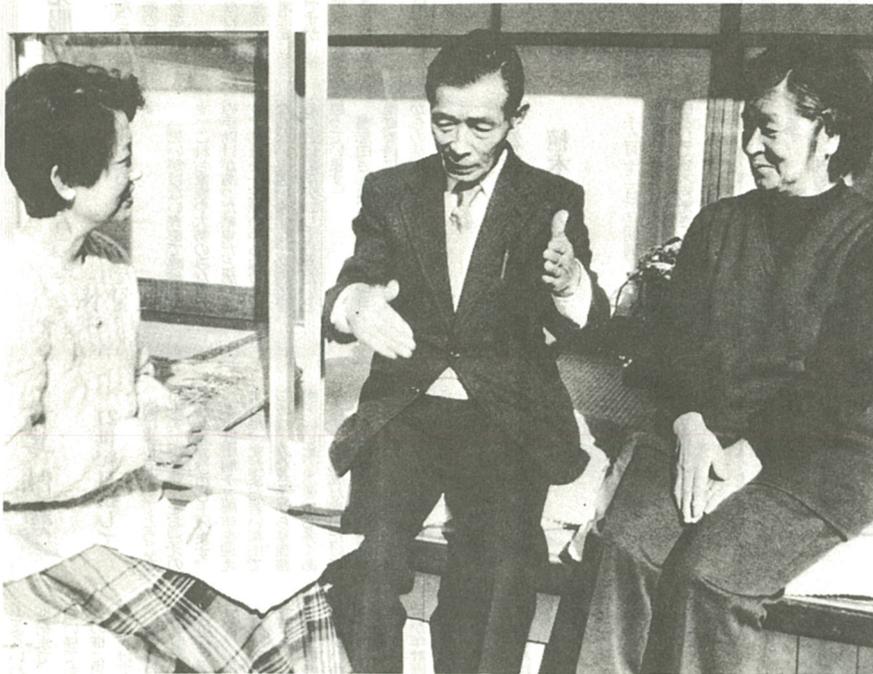
発行・鹿老名市役所・鹿老名市国分155/編集・秘書広報課/電話・31-2111(代)/〒243-04

毎月1日・15日発行

## 広げたい ふれあいの輪

# 新年明けまして

# おめでとーうござんます



手話を楽しく

手話を習うときは、いつも夫婦一緒に。長年連れ添った夫婦でも意  
志の疎通は大切だ。(柏ヶ谷の大貫さんの家で、左が菊池さん)

「一年の計は元日にあり」と申します。今年も日記をつけようが、今年こそはジョギングをしようとかと一年の誓いを立てた方もいらっしゃるのでは。国分にお住まいの菊池昌子さん(81)も二年前にボランティア活動をしようと誓いを立てられ、以前から興味を持っていた手話の講習会に参加しました。その後、手話サクル「さつき会(幾岡タケ子会長)」に入り、手話の勉強を続けているうちに、中途失聴になられた柏ヶ谷の大貫さん(81)と奥さんのタネ子さん(81)に出会いました。菊池さんと大貫さんご夫妻の心暖まる交流をみなさんに紹介します。

### 短歌に感動

いまでも障害者ボランティアについて理解の浅い人がいます。菊池さんがボランティア活動を始めて、実家のお母さんは「お前にボランティア活動なんかできるのかい。その時間があるのなら、英会話の勉強をするのか、もっと実用的なものをしろ……」とまったくにべもなかつたそうです。

ある時、菊池さんはお母さんに手話サクル「さつき会」の十周年記念誌に寄せた大貫さんの短歌を見ました。

聞かされし 首の世界は あきらめて  
ひたすら学ぶ 手話を楽しく

俳句を善くするといってお母さんは、この短歌を読んでたいへん感動し、涙を流されました。そして「大貫さんが高齢になつてから耳が不自由になり、奥さんの励みもあつて、最近手話の勉強会に通つたよになつて、自分が大貫さんご夫婦に個人指導をしているの

### 突然、耳が

大貫さんは柏ヶ谷に二十八年勤めて定年退職し、その後広告関係の会社に再就職。その会社も六十五歳の時に「そろそろ好きな種木と畑でもやつてのんびりと老後の生活を楽しまたい」と退職しました。好事魔多しというが、六十七歳の時に、耳が悪くなり始め、通院中に薬の副作用のせいかまったく聞かなくなつてしまいました。

「経験したことがないし、手話というものもまったく知らなかつたので、大変なことになつてしまつたと思ひました」と大貫さん。またその時のごを奥さんは「まったく見るのかわらなくて毎日しょんぼりしていました。このままでは主人がだめになると思つて『耳の不自由な人はいっばいいます。あなた一人ではないんですよ』と励ましました」と話しています。

### 夫婦だから

現在、大貫さんご夫婦は手話を週一回、市立総合福祉会館で学んでいます。「手話を習うようになって主人は生き生きとしてきましたね」と奥さんは話しています。一緒に勉強しなければならぬので大変ですがねと尋ねると「戦争のときの話を思えば何でもありませんよ。嫁にも夫婦なんですから、頑張つて励まされています」と。一方、菊池さんは「奥さんからこの間習った、買物という手話をさそく使いましたよ、といわれたりするとうれいしですね。生活に密着した言葉を先におぼえてもらおう……と張り切っています。」

ところで、先に紹介した短歌について大貫さんは「少しずつ手話を勉強して、みなさんとそれから楽しく暮らして行きたい、という気持ちのまま歌にしました」と話しています。手話を通して親交を、いま大貫さんは大切にしています。



# 冬の道路はデリケート

打ち水、たき火は控えて!



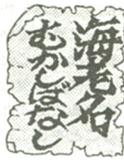
朝晩の冷え込みが日に日に厳しくなってきました。人々の生活が夏と冬を違うように道路の取り扱いも異なります。その第一は打ち水です。特に冷える朝夕に道路に打ち水をするものが凍結してスリップ事故の原因になります。この季節の打ち水は控えていた方がよいとお願ひします。

また、冬の風物詩でもあるたき火は、アスファルト舗装された道路上で行くと、熱で舗装面を傷め、それを何台もの車が通過するうちにひどい場合は穴が空いてしまいます。道路にたき火は遠慮ください。みなさんの生活を支える道路です。どうかこの冬も大切に扱って下さい。

## ▼民話 ▼みんわ ▼民話

龍降寺は、国の重要文化財千手観音立像があり、校の名所また公園として住民に親しまれているが、かつては今の海老名中学校のある丘の中腹にあった。参道は運動場に添う今の南北の通りから三段程の石段を上り、左右の畑を下に見ながら坂を約三十級進むと、また六・七段の石段があった。

正面に本堂、その右手に庫裏があった。本堂は明治六年十一月十二日の火災後再建されたもので、幸い焼失はなかったが、庫裏は幸い焼失はなかったが、広い部屋もあり、青年の集會に利用され



たごもあつた。二度目の石段を登った南側に通り六・七級ほどの椎(しい)の太木が枝葉をを広げていて、土すの葉の裏にいたものだった。

この龍降寺開山さんが、円光大照禪師といわれる高僧だったのだから、高僧といふ称号は有徳の高僧が天皇から賜る称号で、大照禪師は「本朝高僧伝」という書にも記されている。禪師は本名を宗興といひ、延慶三年(一二三二)に尾張國(愛知県)中島郡中島村(今の宮市)の城主、中島藏人宗宗の第三子として誕生された。生来秀才で、七歳の時す



円光大照禪師坐像(等身大)

で経(けい)書を習ったといふ。十九歳の時、同国龍降寺の僧相庵宗憲に頭をそめてわれ仏門に入られた。それはかつて禪師の父が相庵に對し「もし男の子が生まれたらあら、のちに相が建長寺の天孫庵主になつて後継い、鎌倉に来た。そして念願の大応國師の塔前で法を嗣(ついで)で門に入り、数年修行されたのであつた。その後修行の旅に出られたので

も朝に夕べに、後之の丘に端(すい)雲が柳引く様にすつきりこの地が氣に召され、ついに二寺を建立されたのであつた。時に康永元年(一三四二)禪師三十三歳の時であつた。瑞雲山、龍降寺といふ山号寺号は後齊地の、瑞雲の柳引く山、龍が横たわっているような縁、といふ意味を表わした禪師の命名なのであつた。

禪師はすくも翌年には清水寺の再興に力を尽された外、町田市小野路の万松寺をはじめ次々と寺院を建てては法を弘(ひろ)めて行かれた。このように関東地方で八か寺も開かれたが、三十九歳の時、故郷に帰られ、父母の恩に報いるため十七年がかりでなつかしの地に妙興寺の大伽藍(がらん)を開いて二大道場とされ、関東時代より通算百余名の雲水を育てられたのである。

# 海老名むかしむかし

☎33・3838

海老名の昔はなしが電話で聞けます

(池田 武治)

## ▼フォトピックス



電気ヒューズも異常なし。楽しいお正月を！

電気や火気の点検を済ませて安心してお正月を迎えようという

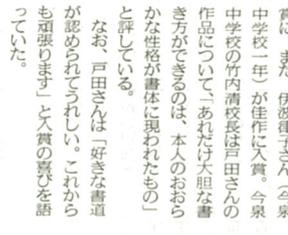
## ▼ふゆとびつぐす

戸田さんが金賞

県央地区・緑の標語・書道にて

県央地区(後)のまち運動推進協議会(若手平会長)が募集していた「緑の標語・書道コンク

## ▼フォトピックス



全国で三位に

モダンバレエで「見さんら

十月八日に秋田市で「第四回あきた全国舞踊コンクール(モダンバレエ)」が行われ、市内から参加した「見さんら」が、八位入賞、十八歳から七人が全員入賞した。

二見さんは、前年も同コンク

## ▼ふゆとびつぐす

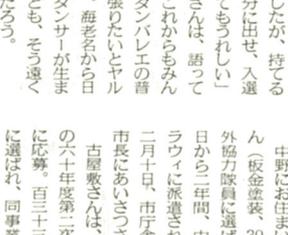
古屋敷さん海外に

青年海外協力隊員として

中野にお住まいの古屋敷さん(板金塗装、30歳)が、青年海外協力隊員に選ばれ、十二月二十日から一年間、中央アフリカのマリイに派遣される。出発前の十二月十日、市庁舎を訪れ、左藤児市長にあいさつされた。

古屋敷さんは、国際協力事業団の六十年度第二次青年海外協力隊に応募。百三十三名のうちの一人に選ばれ、同事業の広尾訓練所

## ▼フォトピックス



丸ワイに派遣される古屋敷さん(右)

で、九月から三か月間訓練を受けていた。丸ワイは、一九六四年七月にイギリスから独立。人口百四十三万人、面積十三万平方

# フレンドシップ

と、十月二日から五日間、市内の独り暮らし老人百三十五人を対象にした安全点検が行われた。

この点検は東京電力厚木営業所、市消防本部、市福祉課職員が三人一組のチームを作って独り暮らし老人の家を訪れ、プロパンガスやストーブ、電気ヒューズなどの検査と相談を行ったもので、今回で三回目。

期間中は一日平均二十六軒を訪れたが、結果は回を重ねるたびに電気コード

# 前人栽樹後人涼

入賞作品と戸田さん

のタコ足配線をしていいる家が滅り、消火器に対する知識が高まっていることだ。

東柏ヶ谷四丁目の福山(よし)さん(八十)「写真上」では「電気」とはよく分らないので調べてもらって安心、ぜひまたお願いします」という声があがった。

戸田さんが金賞

県央地区・緑の標語・書道にて

県央地区(後)のまち運動推進協議会(若手平会長)が募集していた「緑の標語・書道コンク

# 全国で三位に

モダンバレエで「見さんら

十月八日に秋田市で「第四回あきた全国舞踊コンクール(モダンバレエ)」が行われ、市内から参加した「見さんら」が、八位入賞、十八歳から七人が全員入賞した。

二見さんは、前年も同コンク

みなさん湖河地恵子さん(河原口)の弟子で、中には三歳の時から始めて十四年間もモダンバレエを続けている井上あゆみさんもある。

「五年、入賞したことでプロレジャーがかなり増えたが、持てる力を十分に出せ、入選してとてもうれしい」と二見さんは、語っている。これからは、みなさんモダンバレエの普及に頑張りたいと、井上あゆみさんは話した。

古屋敷さん海外に

青年海外協力隊員として

中野にお住まいの古屋敷さん(板金塗装、30歳)が、青年海外協力隊員に選ばれ、十二月二十日から一年間、中央アフリカのマリイに派遣される。出発前の十二月十日、市庁舎を訪れ、左藤児市長にあいさつされた。

古屋敷さんは、国際協力事業団の六十年度第二次青年海外協力隊に応募。百三十三名のうちの一人に選ばれ、同事業の広尾訓練所

丸ワイに派遣される古屋敷さん(右)

で、九月から三か月間訓練を受けていた。丸ワイは、一九六四年七月にイギリスから独立。人口百四十三万人、面積十三万平方